

## 『チャイナ・シー』

—China Seas—

(1935年公開) ※DVDレンタル・販売あり

クラーク・ゲーブル演じるタフなキャプテンが  
恋の三角関係、台風と海賊襲撃に立ち向かう海賊が国の収入源  
だった時代も

今回の映画「チャイナ・シー」は、恋のロマンスに、台風と海賊襲撃のスリルを盛り込んだスペクタクル大作。映画の話に入る前に、「海賊」について説明させてほしい。

海賊は、有史以来3番目に古い犯罪と言われている。紀元前8世紀頃には、フェニキア人とギリシア人が地中海において制海権を競い合い、それがエスカレートして海賊行為を繰り返すようになった。航海時代には「私掠(しりやく)状」が発行され、敵対する国の船を襲い海賊行為を働くことを容認されていた。その代表格は、世界一周航海(1577年〜1580年)を成功させた最初の英国人であり、スペインの無敵艦隊を破った提督キャプテ

ン・ドレークだ。スペイン船を襲い、多くの財貨を英国女王エリザベス1世にもたらしている。大航海時代が終わりに、スペインが新大陸を植民地化すると、金銀財宝を積んでスペインに戻る船を狙う海賊が増えた。カリブ海は海賊のメッカと呼ばれ、海賊黄金時代(1660年代〜1730年代)を築き上げている。

海賊は人類共通の敵  
現在は出沒数が減少

現在は、国際的な警備の強化で出沒数は減少しているとはいえ、ソマリア沖、マラッカ海峡が有名だ。狙われるのは石油タンカーや天然資源を積んだコンテナで、そのまま売り飛ばされることも、身代金を要求されるケースもある。海があるところに

は海賊の姿があると言っても過言ではない。

海賊とは海上で略奪行為を行う盗賊を指し、海賊行為は「人類共通の敵」とされる国際犯罪である。映画の世界では、ディズニアニメ「ピーター・パン」やジョニー・デップ主演「パイレーツ・オブ・カリビアン」(2003年公開)など娯楽性の高いものが多いが、トム・ハンクス主演「キャプテン・フィリップス」(2013年公開)のように2009年「マースク・アラバマ号乗っ取り事件」でソマリア海賊の人質になった船長の伝記が元になったシリアスものもある。

香港—シンガポール  
定期貨客船が舞台

今回紹介する映画「チャイナ・シー」は1935年に公開されたアメリカ映画である。舞台は、イギリス植民地時代の香港、南シナ海の定期貨客船「金龍(キンロン)」号は、シンガポールへ向けて出航しようとしている。航路は海賊船の出沒海域も通るので、



追いかけた情婦に悪い気がしないキャプテン

乗組員は乗客たちへの厳重なボディチェックに余念がない。

船長のアラン・ガスケルは英国海軍の英雄で、乗組員たちに恐れられる存在だ。無駄なおしゃべり、二日酔い、嘔みタバコ、窓の埃など見つけたら即座に厳しく注意していく。いつも怒っている、いつも険しい、それが乗組員たちの抱く彼のイメージだ。今回の航海はいつもに増してアランを緊張させていた。カナダ銀行から預かった25万ポンド分の金塊を積んでいたからだ。現在の金額に換算すると20億円以上に相当する。船長室に戻ると、彼の情

婦「チャイナ・ドール」ドリーがクローゼットに隠れていた。「俺たちはお友達だ。お前はこの地域で一番の女だが、結婚する気はないし、俺は求婚もしていない」と冷たくあしらひ下船させようとするが、ホフマン氏の仕事でチケットを持つっていると云われたら仕方がない。実は情に厚く、頼られたら断れないアランは、自分との別れが寂しくて乗り込んできた情婦を可愛くも思っていた。

海賊の仲間に  
なれてしまい……

出航間際、一人の女性が乗船して

スタジオに実物大セットを作り、  
中国人エキストラを集めた出港シーンを

きた。シビルはイギリス貴族の女性で、軍の舞踏会で不在中の夫バードの代わりに彼女と踊り、家まで送ったのが出会いだった。2人は恋に落ちたが、アランは退役し、東洋へと逃げてきたのである。今は夫が亡くなり、気楽な世界漫遊の旅をしているというシビルとの再会に喜びを隠せないアラン。再会に舞い上がるアランの言葉一つ表情一つにドリーの心は傷つくが、アランは気づきもしない。デイナリーのキャプテンテーブルの末席に座らされ、シビルとアランの親しげな様子を見せびらかされ、嫉妬にもがくドリーは、攻撃性のある失言が止められない。そんなドリーの心を理解していたのは、同じ男性を愛するシビルだった。

シビルは、夫が亡くなった後、アランが貨客船のキャプテンをしているという噂を頼りに、船の旅を続けていた。古い知人が船のオーナーだと知り、わざわざ狙ってこの船に乗ってきたのだ。シビルとアランは婚約し、シンガポールに着いたら結婚し、船乗りも辞めてイギリスへ帰ることに決める。祝福ムードの中、船は台風を避けられず、猛烈な嵐へと突き進んで行く。ドリーは

デイナリーの席で自分の話にただ一人付き合ってくれた昔馴染みの豚商人とゲームとお酒で大盛り上がり。ゲームの掛け金をもらって部屋に帰ろうと、酔って寝てしまった豚商人の財布を開くと、そこには彼が海賊だと証明する「100ドル札の半切れ」が入っていた。仲間にならないと台風の海へ落とすと脅されたドリーは、命がけてアランに伝えるに行くと、アランは聞く耳も持たない。台風一過のその夜、海賊が襲撃してくる。

お正月ロードショーで  
大型映画館を満員に

主演のアランはクラーク・ゲーブル。1934年のアカデミーで主要5部門を受賞した映画「或る夜の出来事」の主演男優である。ドリーはマリリン・モンローも見習ったというセックスシンボルのジーン・ハーロウ。2人が初共演した東洋を舞台にした映画「紅塵」(1932年)のヒットを受け、今作品で再演した。豪華な顔ぶれが揃い、日本ではアメリカ公開の翌年、昭和11年のお正月第二弾映画として1月6日から公開

され、2960人定員の巨大映画館「日劇」を満員にし、その年の動員数ナンバー1洋画となった。映画は世界的にも興行的に大成功を収めたが、マラヤとシンガポールでは公開禁止になった。劇中の海賊はマラヤ人の設定だったからである。

公開当時のタイトルは「支那海」だったが、第二次世界大戦後は日本人が中国人を蔑視する表現だと国際問題になり、日本のマスコミにおいて自主規制され、「チャイナ・シー」の名でDVD販売・レンタルされている。なお、地名は東シナ海など、カタカナ表記は問題されていない。

全編通して「金龍号」が舞台の映画である。撮影で使われた船の名は明らかにされておらず、船全体が映るシーンは模型、他すべてはスタジオのセットで撮影したと思われる。当時はもちろんCG技術がないので、台風のシーンはスタジオに50トンの水を運び、セットをクレーンで揺れ動かしながらの撮影。激しい水量にスタントマンたちも命がけだった撮影に、ゲーブルはスタントマンなしで参加し、役さながらのタフマンぶりを見せた。

(クルーズ映画ライター あいさわみき)